

令和6年5月30日

第1回東京都エネルギー問題アドバイザリーボード

午前11時開会

【田中局長】

それでは、定刻となりましたので、これより令和6年度第1回東京都エネルギー問題アドバイザーボードを開会いたします。

今年度、東京都産業労働局長に着任いたしました田中でございます。本日はよろしくお願いいたします。議事が始まりますまでの間、進行役を務めさせていただきます。

本日は、岩船委員におかれましてはオンラインにて、森本委員が所用のためオンラインでの聴講のみ、また、4人の委員の皆様にはこの場にご出席いただいております。オブザーバーとして、資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部水素・アンモニア課長の日野由香里様にもお越しいただいてございます。ありがとうございます。

初めに、小池知事からご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【小池知事】

皆さん、おはようございます。令和6年度の東京都エネルギー問題アドバイザーボード、第1回となります。どうぞよろしくお願いいたします。

まだ5月にもかかわらず台風が押し寄せ、そしてまた、今年の夏は特に熱中症が激しいということが予想されておりまして、各地にクーリングシェルターを設けることといたします。これは、人の命に直結をするような熱中症の心配に対しての対応策でございます。

そして今、エネルギーを取り巻く環境は世界的にも非常に厳しい流れかと思えます。特に日本にとりましては、円安ということがエネルギー調達という点で厳しい。また、世界的に見ますと、紅海の辺りにホーシー派という人たちがポイントのところにきゅっと押さえるような活動もしておるのと、パナマ運河が水量が十分なくて船の物流が確保できていないというようなこと。もちろんウクライナ、ガザの問題があります。これまでに考えられないようなことが複合的に発生をしている。

その中で、さて我が国、そして首都東京、エネルギー問題の需給をどう確保していくのかということでございます。昨年度は水素の利活用ということ、また様々な観点から、これについてのご意見を頂戴したという流れでございます。

今年度ですが、都が実施をいたします中小規模事業所のゼロエミッションビル化の支援、そしてグリーン水素取引所の立ち上げに向けた取組に皆様方のご議論が繋がったというところでございます。そして気候危機の影響、より強まってきております。今申し上げましたように、夏の熱中症が極めて懸念をされる。そのときにエアコンをきちんと使ってもらわなければ、室内での熱中症が多いものですから、そのあたり、しっかりと注意喚起を行っていきたいと考えております。都民、事業者の活動基盤を支えるエネルギーであります。その安全保障の確立、そして脱炭素化、この2つを成し遂げるための施策を速やかに実行していかなければならないという状況でございます。

そしてまた、昨今の世界を大きく変えているのが生成AIの進歩でございます。これによってデータセンターの設置が各地で進んでおります。ご承知のように、AI、特に生成AIというのは物すごい速度で回して、そして答えを得るということでございます。これによる電力需要というのは極めて高いと言われておりまして、それを考えますと、国内の電力需要は約20年ぶりに増加の見通しとなっております。これも新しい課題として受け止めていかなければなりません。

そして、脱炭素化の切り札と考えております水素でございますけれども、こちらも国際競争が本格化いたしております。社会を持続可能なものとし新たな成長分野とするためにも、水素についてはつくる、運ぶ、使う、この取組を戦略的に展開してまいります。

先日、今年で2回目になりますSusHi Tech Tokyo 2024を開催いたしました。サステナビリティとハイテックの両方を取ってSusHiにしたものでございますけれども、2年目ではございますけれども、あっという間にアジアの大イベントにまでなっております。やはりその中でエネルギーをどのようにして活用していくのか、それも新しい切り口を唱える。それをビジネスにしていこうというスタートアップなども含めて大きな流れ、そして新しい動き、これらをサポートしていきたいと思っております。エネルギーの需給のトランジション、水素の利活用などなど、今日も有識者の皆様方のご意見、ご考察など幅広くご提供いただければと、このように思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。としやべった後、すみません、この後失礼させていただきます。どうぞよろしくお願いいた

します。

【田中局長】

ありがとうございました。本日も委員の皆様方にご協力いただき、実りある議論を行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

知事は公務の都合により、ここで退席させていただきます。

(知事退室)

【田中局長】

また、報道関係の方におかれましては、事前にご案内いたしましたとおり、公開はこちらまでとさせていただきます。こちらで皆様もご退室をお願いいたします。

(プレス退席)